

令和元年度第1回浜松市地域公共交通会議

会議録

1 開催日時 令和元年6月17日（月） 午前10時00分から午後0時00分まで

2 開催場所 浜松市役所北館1階 101・102会議室

3 出席状況

会長

大村 兼資（浜松市都市整備部長）

副会長

中野 民雄（静岡文化芸術大学デザイン学部准教授）

委員

大倉 篤（静岡県交通基盤部都市局地域交通課長）

代理 鷺坂 太一

諸井 宏司（遠州鉄道株式会社運輸業務部長）

田中 友規（遠州鉄道株式会社労働組合副執行委員長）

丸山 晃司（浜松市タクシー協会会長）

大西 優二（静岡県タクシー協会浜名湖北遠支部長）

田口 博（南区自治会連合会長）

川出 虎義（北区自治会連合会長）

西村 恭一（浜北区自治会連合会長）

藤原 昌仁（天竜区連合自治会長）

夏目 雅子（浜松いきいきネットワーク代表）

小松田 始（中部運輸局静岡運輸支局首席運輸企画専門官）

大見 芳（特定非営利活動法人がんばらまいか佐久間理事長）

柴山 智和（浜松市土木部長）

山根 寛史（浜松中央警察署規制係長）

落合 康浩（浜松東警察署規制係長）

加藤 篤（浜松西警察署交通係長）

伊藤 康志（浜北警察署交通係長）

武田 道成（天竜警察署交通係長）

森 正明（細江警察署規制係長）

事務局

鈴木 浩治（交通政策課長）

北村 忠洋（交通政策課長補佐）

外谷 新（交通政策課公共交通グループ長）
井口 哲（交通政策課公共交通グループ）
近藤 大樹（交通政策課公共交通グループ）
笠原 のどか（交通政策課公共交通グループ）
深瀬 真司（交通政策課公共交通グループ）
井口 恵行（北区まちづくり推進課長）
青木 久実（北区まちづくり推進課環境交通グループ長）
黒柳 紀博（北区まちづくり推進課環境交通グループ）
大林 克彦（浜北区まちづくり推進課長）
宮木 隆之（浜北区まちづくり推進課環境交通グループ長）
和久田 佳代（浜北区まちづくり推進課環境交通グループ）
河合 寿（天竜区まちづくり推進課長）
中村 功（天竜区まちづくり推進課長補佐）
吉澤 和久（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ長）
吉田 久記（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ）
古川 成規（天竜区まちづくり推進課計画交通グループ）
要綱第 11 条に基づく出席者
良知 正規（浜松バス株式会社運輸業務課長）
鈴木 篤人（遠州鉄道株式会社運輸業務部次長）

4 傍 聴 者 13 人

5 議 事 内 容

- ・令和元年度浜松市の公共交通について
- (1)バス路線の減便及び退出について
 - ①渋川線の減便
 - [協議事項]
 - ②北遠本線の退出
 - ③あらたまの湯線の退出
 - ④浜松市自主運行バス阿多古線の退出
- (2)バス路線の新規運行について
 - ①浜松市自主運行バス北遠本線の運行
 - ②浜松市自主運行バス阿多古線の運行
- (3)地域バスの運行改善について（地域内フィーダー系統）
 - ①浜北地域バス
 - ②引佐地域バス（改善運行中の変更）
 - ③三ヶ日地域バス
 - ④天竜地域バス（百古里・只来線）
 - ⑤天竜地域バス（門原線）
 - ⑥天竜地域バス（熊・大白木線）
 - ⑦龍山地域バス

⑧春野地域バス

[報告事項]

- (1)公共交通空白地有償運送運行状況報告（H30.4～H31.3）について
 - (2)ICTシステム導入後の実績およびいなさみどりバス導入検証業務について
 - (3)浜松市地域公共交通網形成計画について
 - (4)地域公共交通会議書面開催議決事項について
- ・北遠本線代替運行に係る予備車両の移動円滑化基準適用除外自動車の認定

6 会議録作成者 交通政策課公共交通グループ 深瀬 真司

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音 有

8 会議記録

1 開会

- ・本日の出席は全委員 21 人中 21 人の出席であり、要綱第 9 条第 2 項の規定により過半数を満たしているので本会議が成立することを報告。
(出席者 21 人中 代理出席 1 人、欠席 0 人)

2 会長挨拶

- ・公共交通を取り巻く環境は、少子高齢化の進展、公共交通の利用者減少やバス運転手不足など益々厳しい状況にある。
- ・昨年度には、北遠本線等路線バスの退出について報告があった。
- ・今回の会議では、路線バスの退出申出及び代替運行案を協議するので、忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議事

令和元年度浜松市の公共交通について

●事務局からの報告【交通政策課】

- ・道路運送法施行規則 9 条に則って会議を運営している。
- ・地元の要望に応じて地域バスを運行させることができる。
- ・2 年に 1 回、地域バスが適切に運行されているか確認をする
- ・昨年 10 月に交通事業者から路線退出の申し出があった。退出路線については代替路線を検討している。

●質疑応答

-なし-

(1) バス路線の減便及び退出について

① 渋川線の減便

【遠州鉄道株式会社】

- ・昨年 10 月の公共交通会議で減便の申し出をした。

- ・地元と1年かけて退出後の代替策について協議をしてきた。
- ・渋川儀光から伊平までの区間について朝の1便を除き、令和元年10月より減便する。
- ・渋川儀光7:18発の1便については比較的利用が多いため、令和3年3月末まで運行する。退出を念頭に、交通検討会の中で今後の維持方針を協議している。

●**質疑応答**

-なし-

〔協議事項〕

②**北遠本線の退出**

【遠州鉄道株式会社】

- ・令和元年9月末で退出する。
- ・路線系統キロ程51.9kmのうち退出キロ程は31.0kmで、唐沢～水窪町間を退出する。
- ・唐沢～西鹿島間については、朝1便のみ唐沢から西鹿島方面に向けての便を運行しているため、退出の対象ではなく、下りのみ廃止になる。
- ・利用者の減少、運転手不足により路線の維持が困難となった。
- ・平成31年3月29日に静岡県に対して退出の意向を示した。

●**質疑応答**

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

系統キロ程51.9km、退出キロ程31.0km、下りのみ廃止バス停についてもう一度説明してほしい。

【遠州鉄道株式会社】

下りのみ廃止になるところは退出の対象外になり、51.9kmと31.0kmの差、20.9km分に関しては遠州鉄道が運行する区間として残る。

●**協議**

| |
|--|
| <p>結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|--|

③**あらたまの湯線の退出**

【浜松バス株式会社】

- ・令和元年9月末で退出する。
- ・運転手の確保が非常に困難であり、貴重な人材を利益の出ない部門に、これ以上投入することができないため、路線退出をしたい。
- ・浜北コミュニティバスについては、10月以降も浜松バスで継続運行する。
- ・路線の経営状況は、毎年2,000万円以上の欠損が出ている。営業収入は600万円～700万円、年間利用人数は24,000人、運賃単価は300円弱である。欠損を埋めるには年10万人以上の人に利用してもらわないといけないため、黒字転換は不可能と判断した。
- ・自治会、役員会、協議会等に説明済みである。
- ・静岡県生活交通確保対策協議会地区幹事会に報告済みである。

● 質疑応答

-なし-

● 協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。

④ 浜松市自主運行バス阿多古線の退出

【天竜区まちづくり推進課】

- ・ 運行事業者から、利用者数の減少、極度の運転者不足に陥っている等の理由から、路線退出の申し出があった。
- ・ 退出時期は、令和元年 10 月 1 日を予定している。
- ・ 代替案について、目途が立ったので路線退出をする。

● 質疑応答

-なし-

● 協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。

(2) バス路線の新規運行について

① 浜松市自主運行バス北遠本線の運行

【天竜区まちづくり推進課】

- ・ 運行事業者から路線退出の申し出があったため、令和元年 10 月から新たな運行事業者に委託し、自主運行バスとして維持する。
- ・ 天竜区水窪町から遠州鉄道西鹿島駅までを中型バスにて 1 日 4 往復を予定している。運賃は、エリア制運賃とし 200 円、400 円、600 円、800 円の 4 段階とする。小学生以下や障がい者の運賃は半額とする。
- ・ 定期券・回数券の発行や地域への PR 活動など、利用促進に取り組んで行く。

● 質疑応答

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

水窪町から西鹿島まで乗り継ぎなしで直行できるのか。

【天竜区まちづくり推進課】

乗り継ぎなしで行くことができる。

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

運転手の確保の目途は立っているのか。

【天竜区まちづくり推進課】

落札した事業者に努力してもらおう他はないと考える。

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

毎年入札を行うのか。

【天竜区まちづくり推進課】

今後、運行しながら考えていくが、今のところは1年ごとの契約更新を考えている。

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

地域にとって信頼できる路線となり、安定した運行をしてもらいたいので、入札方法等をよく検討して信頼できるような仕組みにしてもらいたい。

新規運行にあたり、中型車両2台で運行するということだが、これは業者の持ち物か。

【天竜区まちづくり推進課】

請け負った業者に用意してもらおう。

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

地域にとって大切な路線なので、市としても何らかの支援も必要ではないかと思う。初期投資等について市としての支援策等はどうか考えているか。

【天竜区まちづくり推進課】

運行委託の中に購入経費等を入れる方針で検討している。

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

安定した運行を期待しているので、浜松市としても支援をして、地域住民が不安にならないようにお願いしたい。

【静岡運輸支局：小松田氏】

会議資料に、エリア制運賃の運賃表がついているが、字が細かく分かりづらいので、どこからどこまでが何円になるのかを教えてほしい。

【天竜区まちづくり推進課】

200円が水色、400円が緑色、600円が黄色、800円が赤色ということで記載をしている。三角運賃表の色のエリアごとに運賃を設定している。

【静岡運輸支局：小松田氏】

キロ程等で分けているのか。

【天竜区まちづくり推進課】

キロ程と地域エリアも考慮しながら、エリア制運賃としている。

【静岡県地域交通課：鷺坂氏】

便数4便とあるが、これは平日も休日も関係なくこのダイヤで運行するのか。

【天竜区まちづくり推進課】

平日休日ともに同じダイヤである。

【静岡県地域交通課：鷺坂氏】

何度か地元と話し合いをしてきたと思うが、遠州鉄道が北遠本線を運行していた時には5便であったところを、今回4便に減便するという案に至った経緯があれば教えてほしい。

【天竜区まちづくり推進課】

遠州鉄道の運行時には、起終点がそれぞれ水窪町や西鹿島駅で分かれていた。水窪町を出る最終便、西鹿島駅を出る朝1番の便の利用者が極めて少ないため、それぞれ減便し、4便ということにしている。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協調の調ったことを証する書類」を交付する。

②浜松市自主運行バス阿多古線の運行

【天竜区まちづくり推進課】

- ・運行事業者から路線退出の申し出があったため、令和元年 10 月から新たな運行事業者へ委託し自主運行バスを維持していく。
- ・西鹿島駅からくま水車の里までを 10 人乗りの小型車両で、平日は 1 日 16 便、土曜・日曜・祝日は 14 便運行する予定である。
- ・運行方法は、事前予約制のデマンド運行である。
- ・運賃は、地域バスで導入されている 200 円から 600 円の市内統一距離制運賃とし、小学生以下や障がい者の人の運賃は半額である。
- ・定期券、回数券の発行や地域への PR 活動など、利用促進に取り組んで行く。

●質疑応答

【静岡県地域交通課：鷺坂氏】

定時定路線運行からデマンド運行にすることについて、地域との話し合いで大筋合意が取れているのか。

【天竜区まちづくり推進課】

会議などで何度か自治会長に説明をして、多少不安という意見はあったが、最終的には理解してもらえたと思う。

●協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協調の調ったことを証する書類」を交付する。

(3) 地域バスの運行改善について（地域内フィーダー系統）

①浜北地域バス

【浜北区まちづくり推進課】

- ・平成 29 年 10 月から実施してきた浜北コミュニティバスの改善運行について、浜北区交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの全路線の利用者数は 3,338 人、収支率は 13.89%であった。
- ・利用目的は、通院、見舞い、買い物がほとんどであった。利用者は主に高齢者で、ほぼ固定化されている。また、利用促進の取組にも関わらず、収入増につながっていない状況である。
- ・自家用車への依存が強く、地域全体としてバスを守り育てる意識が希薄であること、距離制運賃導入後さらに利用者が減少していることが課題である。
- ・今後の運行は、引き続き 3 路線中、2 路線を最低保証運行とし、1 路線を継続運行で

行っていきたい。改善方針として、利用の少ないバス停を廃止し、ルート距離を短くすることにより、所要時間の短縮など利便性の向上を図る。

- ・あらたまの湯線退出に伴い、浜北さくら台病院区間を通るルートに変更していく予定である。運行形態、日数、路線の数は変更しない。
- ・運行期間は、令和元年10月1日から令和3年9月30日までの2年間を予定している。
- ・平成29年12月20日から7回検討会を開催しており、平成30年12月26日の浜北区交通検討会で改善案が承認された。また、平成31年1月24日の浜北区協議会においても承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

| | |
|-----------|---|
| 結果 | ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|-----------|---|

②引佐地域バス（改善運行中の変更）

【北区まちづくり推進課】

- ・令和元年9月30日をもって、渋川線の伊平バス停より以北の路線退出に伴う対応策として、現在の運行方法の一部の変更を行うことを引佐交通検討会において検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成30年3月1日から令和2年2月29日までの2年間の予定で実証運行を行っているICTシステムを導入したデマンド運行便と、主に引佐北部小中学校への登校便として利用されているスクール便の2系統の運行となっている。
- ・実証運行を行っているデマンド便については、利用者の利用時間を考慮した予約ができること、引佐地域を中心に158箇所の停留所を設けていることから、特に高齢者の日常生活に必要な交通手段を確保できている。
- ・スクール便については、1便当たりの乗車人員はほぼ満員で、収支率は維持基準20%を満たす運行となっている。
- ・引佐地域は集落が点在しており、交通空白地域内の高齢者ドライバーが多く、自家用車への依存が高い地域となっていること、また、令和元年9月30日に路線バスが退出するため、高校生や引佐北部小中学校への児童・生徒の登下校便を確保する必要があることが課題である。
- ・デマンド便については、現在の収支率は10%前後となっている。
- ・路線名について、2系統の運行であることから、地域住民にわかりやすくするため、デマンド便をなおとら線、スクール便をつつじ線と呼ぶことと考えている。
- ・つつじ線は金指駅から引佐北部小中学校のある田沢地域までの運行としていたが、遠州鉄道の路線退出に伴い、主に高校生の登下校便を確保するため、運行距離を延長し、渋川地域まで運行する予定である。
- ・運行本数について、朝は1往復の2便、夕方は2往復の4便、合計6便を予定している。

- ・引佐交通検討会、地域住民の説明会等、合計8回行って、最終的には引佐交通検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

【静岡県地域交通課：鷺坂氏】

ICT実証運行について、高齢者に使ってもらうための工夫等があれば教えてほしい。

【北区まちづくり推進課】

高齢者は電話予約を出来ない人が多いため、各地域に担当が赴き、シニアクラブの会合などで定期的に案内をするようにした。また、地域も非常に協力的で、引佐地区のまちづくり協議会が主導となり、デマンド便の利用促進をしている。

●協議

| | |
|-----------|---|
| 結果 | ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|-----------|---|

③三ヶ日地域バス

【北区まちづくり推進課】

- ・平成29年から実施してきた三ヶ日地域バスの改善運行について、三ヶ日地域検討会において自己評価を行い、今後の維持方針について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・収支率は36.6%であり、維持基準である20%を満たしている。
- ・交通空白地域の住民、特に高齢者の日常生活に必要な交通手段を確保することができる。
- ・主な利用者は、高齢者と児童である。
- ・高齢者で地域バスを利用していない人がまだいるので、効果的な利用促進策、PRを努めていきたい。
- ・自家用車への依存は引佐地域と同じく高い地域である。
- ・現在の運行形態を継続して2年間運行していきたい。
- ・道路に出ているバス停があるので、一部民地側に入れさせてもらうように考えている。
- ・運行期間は、令和元年10月1日から令和3年9月30日までの2年間を予定している。
- ・平成30年1月31日の三ヶ日地域交通検討会から令和元年5月8日の三ヶ日地域交通検討会まで4回にわたり協議をし、改善案の承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

| | |
|-----------|---|
| 結果 | ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|-----------|---|

④天竜地域バス（百古里・只来線）

【天竜区まちづくり推進課】

- ・平成 29 年 10 月から実施してきた天竜（百古里・只来）地域バスの改善運行について、百古里・只来地域交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針等について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの利用者数は 60 人、収支率は 6.1%であった。
- ・体験乗車会実施後、乗車人数は増えたが、同地域の少子高齢化や人口減に伴う利用者の減少が見られた。
- ・利用者の大半は高齢者であり、買い物や通院を主目的に利用する人々でほぼ固定化されている。
- ・維持基準である収支率 20%を満たさないことから、令和元年 10 月以降も最低保障運行を行う。
- ・啓発活動の他、イベント時での地域バスの活用、回数券の斡旋などの利用促進策を積極的に取り組んでいく。
- ・平成 30 年 12 月 17 日開催の検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

結果

・全会一致で了承された。

・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。

⑤天竜地域バス（門原線）

【天竜区まちづくり推進課】

- ・平成 29 年 10 月から実施してきた天竜（門原）地域バスの改善運行について、天竜（門原）地域交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針等について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの利用者数は 334 人、収支率は 6.5%であった。
- ・小中学生の通学便をスクールバス運行へ移行したため、利用者の減少が見られるが、地域全体ではある程度の利用があった。
- ・利用者の大半は高齢者であり、買い物、通院を主目的に利用する人々でほぼ固定化されている。
- ・維持基準である収支率 20%を満たさないことから、令和元年 10 月以降も最低保障運行を行う。
- ・啓発活動の他、イベント時での地域バスの活用、回数券の斡旋などの利用促進策を積極的に取り組んでいく。
- ・平成 30 年 11 月 26 日開催の検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協調の調ったことを証する書類」を交付する。

⑥天竜地域バス（熊・大白木線）

【天竜区まちづくり推進課】

- ・平成 29 年 10 月から実施してきた天竜（熊・竜川）地域バスの改善運行について、熊・竜川地域交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針等について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの利用者数は 1,103 人、収支率は 10.9% であった。
- ・人口の自然減がある中で、利用者数は概ね横ばい傾向で、地域全体ではある程度の利用をされている。
- ・利用者の大半は高齢者であり、買い物、通院を主目的に利用する人々でほぼ固定化されている。
- ・2 路線とも維持基準である収支率 20%を満たさないことから、令和元年 10 月以降も最低保障運行を行う。
- ・熊線の 1 日当たりの運行便数は 3 便であったが、地域の要望により 4 便に増便し、利便性を向上すると共に、運行曜日を水曜日・金曜日から火曜日・金曜日に変更する。
- ・啓発活動の他、イベント時での地域バスの活用、回数券の斡旋などの利用促進策を積極的に取り組んでいく。
- ・平成 30 年 11 月 22 日に協議し、平成 31 年 1 月 21 日の検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

結果 ・全会一致で了承された。
・「協調の調ったことを証する書類」を交付する。

⑦龍山地域バス

【天竜区まちづくり推進課】

- ・平成 29 年 10 月から実施してきた龍山地域バスの改善運行について、龍山地域交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針等について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成 29 年 10 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの利用者数は 1,519 人、収支率は 8.0% であった。
- ・人口減に伴う利用者の減少は見られるが、地域全体ではある程度の利用があった。
- ・利用者の大半は高齢者であり、買い物、通院を主目的に利用する人々でほぼ固定化さ

れている。

- ・白倉線Aを除く5路線で維持基準である収支率20%を満たさないことから、令和元年10月以降も最低保障運行を行う。
- ・白倉線Aについては、地域協力金により収支率20%を維持することで、学校開校日に1便運行をしてきたが、平成31年4月より生徒の利用が見込まれないことから、令和元年10月以降は廃線となる。それに伴い、白倉線Bの名称を白倉線に変更する。
- ・啓発活動の他、イベント時での地域バスの活用、回数券の斡旋などの利用促進策を積極的に取り組んでいく。
- ・平成30年11月2日開催の検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

-なし-

●協議

| | |
|-----------|---|
| 結果 | ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|-----------|---|

⑧春野地域バス

【天竜区まちづくり推進課】

- ・平成29年10月から実施してきた春野地域バスの改善運行について、春野地域交通検討会において自己評価を行い、今後の維持方針等について検討したので、協議をお願いしたい。
- ・平成29年10月1日から平成31年3月31日までの利用者数は8,584人、収支率は9.2%であった。
- ・人口減に伴う利用者の減少は見られるが、地域全体ではある程度の利用があった。
- ・利用者の大半は高齢者であり、買い物と通院を主目的に利用する人々でほぼ固定化されている。
- ・全ての路線で維持基準である収支率20%を満たさないことから、令和元年10月以降も最低保障運行を行う。
- ・啓発活動の他、イベント時での地域バスの活用、回数券の斡旋などの利用促進策を積極的に取り組んでいく。
- ・平成30年11月30日開催の検討会で改善案の承認を得ている。

●質疑応答

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

春野地域バスだけではなく、改善運行全体について意見を述べる。

実証運行、改善運行について、事業者や市の努力に感謝している。

三ヶ日以外の地域が、維持基準である収支率20%を満たすことは難しいと思っている。

高齢化や人口減少が進む浜松市の中で、地域の移動手段の確保を積極的に行っていくことも、これからは必要だと思う。今後、地域に合った交通政策をお願いしたい。

●協議

| | |
|-----------|---|
| 結果 | ・全会一致で了承された。 ・「協議の調ったことを証する書類」を交付する。 |
|-----------|---|

〔報告事項〕

(1) 公共交通空白地有償運送運行状況報告 (H30.4~H31.3) について

【がんばらまいか佐久間：大見氏】

- ・現在会員登録されている方が2,023人、車両は2台で運行している。運転手は8名登録している。
- ・運送回数1,326回、運送人員1,594人、収入は1,000,000円程度であった。
- ・事故、苦情は0件であった。
- ・人口減少と高齢化により、利用者数が徐々に減っており、車両は2台あるが、実際は1台で回している状況で、経営的には厳しい。
- ・北遠本線の路線沿いに住んでない人たちが佐久間町内に大勢いるので、都市部の総合病院へ通院するためのお出かけ運行にも取り組んでいきたい。

【交通政策課（春野のえがお代理説明）】

- ・運行可能日数206日のうち、実運行日数は173日、運行回数は669回、乗車人数は844人であった。
- ・事故及び苦情件数ともに0件であった。事故防止研修は平成31年3月13日に実施している。
- ・平成30年度は前年度に比べ利用者数、運賃収入ともに減少している。

●質疑応答

-なし-

(2) ICTシステム導入後の実績およびいなさみどりバス導入検証業務について

【交通政策課】

①いなさみどりバスについて

- ・平成30年3月より実証実験を開始した。
- ・この実証運行はオンデマンド運行であり、バス停のみを設置し、利用者は乗りたいバス停、降りたいバス停と乗車及び降車時間を伝える。複数の予約が入るので、予約を束ねて可能な限り乗合しながら運行ができるよう、システムがルートを自動的に決めて運行する。
- ・運行エリアは従来の引佐地域に加え、細江地域の基幹病院や商業施設にも行けるようになった。
- ・運行日時は月・水・金・土の週4日で、8時から18時までの運行である。
- ・料金は200円~600円、予約は電話だけでなく、インターネットからも予約が可能である。
- ・利用者数は増加傾向を示しており、今年4月末までに延べ2,995人を輸送している。
- ・ICTシステム導入後のいなさみどりバス利用経験者、非利用者、未登録者の3種類でアンケートを実施した。利用者および非利用者については登録者全員、未登録者については引佐地域から無作為に中学生以上の1,000人を対象として実施した。
- ・いなさみどりバスの利用状況は、外出目的は通院が6割、買い物が約3割であった。
- ・今後もいなさみどりバスを利用したいと答えた人は9割以上いた。

- ・非利用者の3割強、未登録者の2割程度が運転免許証を持っていないにも関わらず、いなさみどりバスを利用していないことから、新規利用の可能性のある人が存在していると考えられる。
- ・非利用者で現状のサービスでも今後利用したいと回答した人が約半数、未登録者は今後も利用しないと答えた人が約半数という結果になった。
- ・現在、月・水・金・土の週4日で運行しているが、不満が3割あり、今後、運行日の増減、曜日の変更などについて、調査検討していきたい。また、利用したい場所に行けないとの要望が出ている場合には自治会との調整を行い、必要に応じてバス停の増設を行っていききたいと考えている。
- ・運行内容が知られていないことや予約に対する抵抗があることから、パンフレットを分かりやすいものに変更し、周知を図っていききたい。

②佐久間 NPO タクシー町外運行について

- ・これまで町内運行に限定していた NPO タクシーだが、会員は町内から町外へ、非会員は西鹿島駅から佐久間町内への利用を認めることで、NPO タクシーの利便性向上を図ってきた。
- ・利用実績は8件であり、少ない状況だが、利用促進策として、遠州鉄道鉄道営業所および天竜浜名湖鉄道の協力により、駅へポスター掲示およびチラシ配架を行った。今後も新規利用および継続利用に向けた支援を行っていききたい。

●質疑応答

-なし-

(3) 浜松市地域公共交通網形成計画について

【交通政策課】

- ・令和2年度の公表を目標として、地域公共交通網形成計画の策定を進めている。
- ・地域公共交通網形成計画とは、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づくもので、地域にとって望ましい公共交通網の姿を明らかにしたマスタープランの役割を果たすものである。まちづくりとの連携や地域全体を見渡した、面的な公共交通ネットワークが必要となっている。
- ・アンケートは、天竜区と北区の民間路線バス・地域バス・NPO タクシーの利用者、天竜区と北区の主要な目的地における実態調査、交通事業者と地域交通検討会に対するヒアリング、の大きく3つに分けて実施した。
- ・バス利用者は、車の所有率が低く、単身の世帯が多かった。
- ・路線バスの主目的は、通院、通勤、通学で幅広い世代が利用している。
- ・運行本数や時間帯をもっと増やしてほしいという声が多かった。
- ・地域バスは高齢者の利用が多く、病院に行くために使う人が最も多かった。9割以上の人が今の地域バスに満足していると回答した。
- ・NPO タクシーは高齢者の利用が多く、病院への利用が多い。運行区域を広げてほしいという要望もあった。
- ・主要な目的地における実態調査では、車で訪れる人が大半であった。公共交通を利用しない理由は、移動手段があるためというものが大きな理由であった。一方で、免許

返納についても確認したところ、検討はしているという声はあったが、今すぐには難しいという声が多く、約7割は80歳以上で免許返納をするかもしれないという回答であった。

- ・交通事業者へのヒアリングでは、問題点として、利用者の減少が多い、運転手の確保が困難という声があった。利用者からは、運行日の増加や運行本数の増便をしてほしいという声があった。
- ・地域住民への関係者ヒアリングでは、地域バスを利用しない理由は、車を運転している、または送迎してもらっていることが大きな理由であった。地域バスの宣伝が足りないのではないかという声もあり、検討する必要があると考えている。
- ・現在のバスの公共交通の状態や人口分布、主要施設の立地や移動実態等を考慮して将来に向けた公共交通のあり方について今年度を目途に検討していきたい。
- ・今年度、総合交通計画策定業務の中で網形成計画を策定予定である。公共交通のネットワークの見直しや、地域バスの維持基準等が主な検討内容である。

●質疑応答

-なし-

(4) 地域公共交通会議書面開催議決事項について

・北遠本線代替運行に係る予備車両の移動円滑化基準適用除外自動車の認定

【交通政策課】

- ・北遠本線を運行する予備車両の移動円滑化基準適用除外について、異議あり0人、異議なし21人、未回答0人で承認された。
- ・北遠本線の新規運行の予備車両については移動円滑化基準適用除外の車両を使用することについて協調の証を発行する。

●質疑応答

-なし-

4 その他

-なし-

5 閉会